

2025年度

国語

最初に、以下の注意事項をよく読んでください。

1. 問題冊子は監督者の指示があるまでは開いてはいけません。
2. 監督者の指示にしたがって、解答用紙に受験番号と氏名を記入してください。問題冊子は受験番号のみを記入してください。
3. 試験問題の内容に関する質問には答えられません。それ以外の用事があるときは手をあげてください。
4. 受験中気分が悪くなったときは、監督者に申し出てください。
5. 漢字で書くべきところは漢字で書いてください。

受験 番号	
----------	--

*解答に字数制限がある場合は、句読点なども字数として数えます。

【一】 次のそれぞれの問いに答えなさい。

問一 ①⑤の——線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 朝に日光をアびる。
- ② 地図のシユクシヤクを確かめる。
- ③ ジシヤクで紙をはり付ける。
- ④ 司会をツトめる。
- ⑤ ボウサイ用品をそろえておく。
- ⑥ 金と銀がとれるコウザン。

問二 次の中から意味が似ている言葉を二つ選び、記号で答えなさい。

- ア、親切 イ、向上 ウ、善意 エ、切実 オ、絶対

問三 次の□の中のひらがなを漢字にしたときの部首名をひらがなで答えなさい。

書類を ゆう 送した。

問四 次の□に^い対になる漢字を入れて、四字熟語を完成させなさい。

□ 変 □ 異

問五 次のことばは慣用句である。() に入る漢字の総画数を漢数字で答えなさい。

水 () の交わり

【二】 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

バレエスクールに通う「わたし」（町田さん）は、バレエのオーディションと学校の修学旅行の日程が重なり、修学旅行をあきらめようと考えた。しかし、修学旅行で同じ班になろうとしていた坂巻さんに、修学旅行を休んでもオーディションに受かるかわからないはずだと言われてしまい、どちらを選ぶか迷っていた。

月曜日。いつもの角のところに坂巻さんがいた。約束をしているわけじゃないけれど、三年生のときに同じクラスになってから、坂巻さんはここでわたしを待っている。

「おはよう」と声をかけると、坂巻さんはほっとしたように「おはよう」と、わたしのとなりに並んだ。

「町田さん、金曜日はごめんね。あたしあんなこと思っていないのに」
歩きながらわたしが顔を向けると、坂巻さんはすつと視線をさげた。

「坂巻さんは応援してくれてるって、わかってるから」

「ほんと!？」

「あらためていわれると、逆に勘ぐりたくなる」

「え、ちがうちがう本当にちがうから」

わかっている、と笑うと、坂巻さんも表情が少しやわらかくなった。

「あやまらなきやいけないのは、わたしでしょ」

「町田さんが？」

「修学旅行」

あ、と口を動かして、坂巻さんは数度（ A ）を横にふった。

「わたし、修学旅行に行きたくないわけじゃないよ。みんなと行けば楽しいと思うし。あとで修学旅行に行けばよかったって後悔するかもしれないし」

坂卷さんはだまってわたしの話を聞いている。

「ドイツのバレエスクールとの合同公演会があるの、そのオーディション。受かったとしても大した役じゃないってわかってる」
「ドイツ？」

そう、とうなずくと、坂卷さんは足を止めた。

「わたし、どんな役でも舞台に立ちたい」

町田さん……と、坂卷さんはまっすぐにわたしを見た。

「絶対受かるよ。合格する、町田さんなら絶対！ あたし舞台観に行くから」

あんまり必死にいうから、わたしはうっかり笑ってしまった。

「ごめん、うん、観に来て」

そういつたとき、バタバタバタと足音がした。「うりゃ」「まで！」と体操服袋をふりまわしながら、滝島と細川さんが、わたしたちの横をかすめるように駆けぬけていった。

「ちよつと！ あぶないでしょ！」

坂卷さんが、細川さんたちの背中に向かってどなった。

① ああ、いつもの坂卷さんだ。

昼休み、六年一組の女子十二人は全員、教室に残った。窓際、ロッカーの前、廊下側、教卓の前と四か所に数人ずつ固まっている。

担任の中井先生から「今日中に生活班が決まらないときは、くじ引きで決めます」と、X 最後通告を突きつけられたからだ。
「どうする？」

「あたしたちは三人いっしょじゃないとやだ」

「だれかわたしたちと班組まない？」

それぞれみんないたいことをいって、四人班がきれいにそろっているところは一つもない。

「町田さんが行ければ、あたしたちは四人で班ができるのに。ね、町田さん本当に修学旅行行かないの？」

「うちのお母さんが、修学旅行は行ったほうがいいっていったよ。ほら、卒アルにも修学旅行の写真載るしき、そこにいなかったらさみしくない？」

だよ、と加賀さんと松井さんが交互にいい合っていると、坂卷さんが、がたつと音を立ててイスから立ちあがった。

「町田さんの気持ち、少し考えなよ！ あたしは町田さんのこと応援する」

えっ、と加賀さんと松井さんが顔を見合わせた。

「坂卷さんが一番文句いってたくせに」

「そうだよ、なにいきなり。そこまでして町田さんに取り入ろうとするってみともないんだけど」

松井さんがいい返すと坂卷さんは顔を真っ赤にした。

「そんなんじゃないから！ 友だちの夢を応援するのはあたりまえじゃん。べつに三日くらいだれと同じ班だってあたしいし」
「なら、いいよ」

そういって加賀さんは、ロッカーの前にいる中瀬さんと新川さんに「ねー」と声をかけた。

「あたしとカオリと、四人で班組まない？」

「いいけど」

と、中瀬さんはちらと坂卷さんのほうを見た。

「あーいいのいいの、坂卷さんはだれと同じ班でもいいんだって」

行こ、と加賀さんは松井さんの腕をつかんで、ロッカーのほうへ行った。坂卷さんは引きつった顔をしながら、教室を見わたした。

残っている班は、字見さんたちと細川さんのグループ。どちらも三人組だ。

ここで坂巻さんがごねれば、ふり出しにもどって、班決めはくじ引きになる。坂巻さんにとっては三人グループのなかに入るよりそうなったほうがましな選択だ^{せんたく}と思う。もちろんみんなは文句をいうだろうけど。

「坂巻さん」

② わたしが声をかけると坂巻さんは引きつった笑顔^{えがお}を向けた。

「だいじょうぶ。町田さんもひとりでオーディションがんばるんだもん。あたしだってがまんする」

「なにそれっ」

字見さんがくぐもった声を出した。

「だれもあたしたちの班に入れてあげるなんていってないしつ。がまんとか、はあーって感じなんだけど」となりにいるふたりも激しくうなずいている。

たしかにいまのは坂巻さんの失言だ。

③ 「だったら」くじ引きで決めるしかないんじゃない、といおうとしたわたしのことは細川さんの声が蹴散^{けち}らした。

「じゃあ、坂巻さんはあたしたちのところがまんだね」

細川さんはそうのんきそうにいて、「ね」と高峯^{たかみね}さんと日野^{ひの}さんを見た。「えー」と不満そうに（ B ）日野さんを高

峯さんがなだめている。

「べ、べつに、ムリに入れてくれなくなっただけいいし。あたしだってあんたたちと同じ班なんて屈辱^{くつじやく}だし」

坂巻さんはどうしてか、わたし以外の人には辛辣^{しんれつ}なことをいう。それは彼女^{かのじょ}なりのプライドからのこと、なんだとは思うけれど、損をしている。

と、細川さんが大き^いなため息をついて両手を腰^{こし}にあてた。

「あたしのがまんするんだから、坂巻さんもちょっとくらいがまんしなよ」

「はっ?」

「せっかく格好つけて、町田さんのこと応援するんでしょ。だったら潔く、あたしたちの班になるしかないじゃん。他はないんだし」

高峯さんが、

1

しながら細川さんのシャツを引っぱっている。

「坂巻さんって一言多いんだってば。だからきらわれるんだよ」

……本当に、細川さんって。

細川さんは、息を殺して何時間もかけて並べたドミノの横を、平気で足音を立てて走っていくような人だ。無遠慮でがさつでデリカシーがなくて。

でも、だからついこっちも本気になってしまう。

「わたしだって、行きたいよ」

気がついたら口からこぼれていた。

細川さんが驚いた顔でわたしを見ている。

「けど、どっちかしか選べない」

本当に大切なものを手に入れたかったら、あきらめなきゃいけないこともあるから。

「どっちもじゃダメなの？」

「はっ？」

「あたしも迷ったよ、お父さんがおみやげで買ってきたパフェ風チーズケーキとおばあちゃんを買ってくれたイチゴ大福。さすがに両方食べちゃうのは贅沢かななんて思って、チーズケーキだけ食べたの。イチゴ大福は明日のお楽しみ！ って」

この人はなにをいってるの？

「なのに次の日、あたし盲腸で入院したんだよ」

「意味がわからないんだけど」

わたしがいうと、細川さんは勾玉みたいな目を丸くした。

「食べ損ねたんだよ！ イチゴ大福」

イチゴ大福……。

「あのときあたしは悟ったんだよね。迷ったら両方ともいつとくべきって」

……イチゴ大福と修学旅行を同一にあつかうって、どういう思考回路をしているんだろう。

「だからなんなのっ！ オーディション会場と日光は距離があるんだから物理的にムリ」
ぴしゃりというと、細川さんはちちちと指をふった。

「オーディションって二日目なんでしょ。だったらそれが終わったら来ればいいじゃん」

あっ……。

「町田さん！」

坂卷さんが、わたしの手をぎゅつとにぎった。

④ 考えて、みる

ぼそつというと、細川さんは得意そうにあごをあげた。

「あ、でもそうなら班はどうするの？」

高峯さんがいうと、数秒間、教室がしんとした。

「わたしは、字見さんたちの班に入れてもらうから。いい？」

そういうと、字見さんたちはちよつと引きつりながら「うん」と三人でうなずいた。

「えー、なにそれ、班決めやり直そⅡうよ！」

そうわめく坂卷さんの声と同時にチャイムが鳴った。

「はい、時間切れ。しょうがないよ、坂卷さん。お互いにあきらめよ！」

細川さんは「見て」と坂卷さんの腕を引いて、ノートを広げている。

「揚げ湯葉まんじゅう、淡雪かき氷、秋限定のくりようかん！ 人形焼き、みそだれ&黒みつのおだんご、とろけるプリン。こ

れ全部食べるのが目標なんだ」

「買い食いなんてNGでしょ。グルメツアーじゃないんだよ」

⑤ 坂巻さんがふてくされたようにいうと、「え——」と細川さんがのけぞっている。教室のうしろのドアから「なに盛り上がってるの？」と滝島たち男子がばたばたと入ってきた。

日焼けした顔に汗が流れている。

「滝島、汗すごいわ、顔洗ってきなよ」

「かあちゃんかよっ」と笑いながら、滝島は廊下へ出ていった。

細川さんたちは、まだ 2 やっている。

思いはことばに変えて。

ことばにしなきゃ伝わらない。

細川さんたちはまださわいでいる。

あのなかに、わたしもいつか……。

そんなことをふっと考えて、苦笑した。

(いとうみく『ちいさな宇宙の扉のまえで 続・糸子の体重計』〈童心社〉より)

問一 1 2 に入ることばとして適切なものを次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- 1 ア、すすごこ イ、くよくよ ウ、うかうか エ、おろおろ
2 ア、わいわい イ、ひそひそ ウ、がつがつ エ、ほくほく

問二 (A) (B) に入ることばとして適切なものを次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- A ア、ひたい イ、つむじ ウ、かぶり エ、こうべ
B ア、頬ほおをゆるませた イ、唇くびるをとがらせた ウ、目を丸くした エ、鼻であしらった

問三 〓 線部Xの四字熟語と同じ成り立ちのものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア、右往左往 イ、完全無欠 ウ、春夏秋冬 エ、臨時列車

問四 〓 線部I・IIと同じ用法のものを次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

I 「な」

- ア、窓から暖かな日差しが入る。 イ、最近、おかしなことがよく起きる。
ウ、白い綿のような雪がふる。 エ、複雑なパズルにちょうせんする。

II 「う」

- ア、用事があるので早く帰ろうと思う。 イ、いまごろは紅葉がきれいだろう。
ウ、健康のためにいっしょに歩こうよ。 エ、おばから旅行のおみやげをもらおう。

問五

——線部①「ああ、いつもの坂巻さんだ」とあるが、このように思ったときの「わたし」のようすとして適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、坂巻さんが落ちこんでいると思っただけで心配していたが、はげましたら元気になったのでうれしくなっている。
- 2、坂巻さんの発言を残念だと思っていたが、互いにあやまってわだかまりがなくなったので満足している。
- 3、坂巻さんとの関係性が変わってしまおうと思っただけで不安だったが、今まで通り仲良くできそうなので安心している。
- 4、坂巻さんにおこられるのではないかと緊張きんちょうしていたが、応援してくれるとわかって前向きになっている。

問六

——線部②「わたしが声をかけると坂巻さんは引きつった笑顔を向けた」とあるが、このときの坂巻さんのようすとして適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、「わたし」に負けないように自分も強い意志をもとうと決意を固めたので、落ち着いている。
- 2、自分が損をすることになり、「わたし」にどう答えてよいかわからないほど平静を失っている。
- 3、修学旅行へ来ない「わたし」に文句を言ってしまったので、よい面を見せたいと思っている。
- 4、思わぬ不利な展開にあせっているが、「わたし」を心配させることがいやで、強がっている。

問七

——線部③「『だったら』くじ引きで決めるしかないんじゃない、といおうとした」とあるが、それはなぜか。文中のこ
とばを用いて、三十五字以内で答えなさい。

問八 — 線部④「考えて、みる」とあるが、このようにいったときの「わたし」のようすとして適切なものを次の中から一つ

選び、番号で答えなさい。

- 1、自分にとって思いがけない解決方法だったので、おどろくともになつとくしている。
- 2、修学旅行をあきらめなくてよいのだと思い、うれしくて何も考えられなくなっている。
- 3、本当に実現できるのかわからない案を提案されて、返事をしたものの不満を覚えている。
- 4、細川さんが簡単に解決してくれて、何も思いつかなかった自分がはずかしくなっている。

問九 — 線部⑤「坂巻さんがふてくされたようにいう」とあるが、坂巻さんがふてくされているのはなぜか。その理由として

適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、「わたし」が入る班を決めてしまい、自分とは同じ班になりたくないのだと思ったから。
- 2、「わたし」も入れて班を決め直すことができると期待したが、それがかなわなかったから。
- 3、「わたし」が修学旅行に行けるようにするよい案を、細川さんに言われてしまったから。
- 4、同じ班になった細川さんが買い食いの話ばかりしていて、修学旅行に期待できないから。

問十 細川さんの人物像として適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、みんなにどう思われるかをかえりみないこわいもの知らずな自信家で、孤立こりっしている人物。
- 2、だれに対しても態度や言葉があまりく行動もがさつで、クラスのみんなからおそれられる人物。
- 3、みんなが文句を言うのもかまわず、独特の価値観で割り切った意見を言う、遠慮のない人物。
- 4、みんなが不満をもって言い合いをしていてもゆつたりした心をもって、場の調和をはかる人物。

問十一 この文章の最後で、「わたし」たち女子の修学旅行の班決めの問題が解決した。この解決を受けて、「わたし」は自分自

身についてどのようなことを考えているか。文中のことはを用いて、四十字以内で答えなさい。

【三】 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

おカネやコトバの本質とは

私たちがどうして一万円を持つとうれいいのかといえ、他人が一万円として受け取ってくれるからです。この「誰か^{だれ}が受け取ってくれる」というところがポイントです。これは物理法則ではありません。多くの人が「価値がある」と思っていることに意味がある。——社会科学の出発点は、ここにあります。

人々の思い込み、心理、期待によって、①一枚の紙切れが一万円の価値を持つ。すべての人が一万円の価値があると思うから、一万円分の価値が生じる。この論法を「自己循環論」といいます。

おカネの価値に、物理的根拠^{こんきょ}はない。「皆^{みな}がおカネだと思つて使うから皆がおカネとして使う」という自己循環論が、おカネに価値を与^{あた}えている。紙幣^{しへい}だけではなく、硬貨^{こうか}や金銀も同じです。昔の金銀は宝としてではなく、おカネとして他人が受け取ってくれるから、おカネとしての価値を持っていた。そうでなければ人に渡^{わた}さずに自分で持ち、装飾品^{そうじやく}として使うでしょう。金銀がおカネとして使われるということは、装飾品としてのもの以上の価値があつたということです。

②同じことはコトバについてもいえます。コトバは単なる空気の振動^{しんどう}。「ドロボー」といってもすべての人間が「ドロボー」という意味にとるのではなく、アメリカで叫^{さけ}んでも誰も振り向いてくれません。日本語を理解する人にしか通用しないわけです。インクのシミである文字、書きコトバも同じです。「立入禁止」と書かれた看板を見た人は、そこに入ろうとしない。「立入禁止」の意味を持つとみんなが思っているから、通用するんです。

このように、おカネもコトバも自己循環論法の「A」です。誰もがそう思っているから価値や意味を持つという、不思議な存在。だから、物理的性質としても遺伝的性質としても説明がつかない、みんながそう思っているというプロセスで価値を帯びた、意味を持ったということです。さあ、これでおカネやコトバの本質が、かなり「B」されてきました。

おカネやコトバが存在する以前のコミュニティ

次の問題は、おカネはどういう働きをしているのか、コトバはどういう働きをしているのかということ。アメリカで二〇〇七年にサブプライムローン問題、二〇〇八年にリーマン・ショックという経済的な危機が起きて、世界中に深刻な影響を与えました。もうおカネなんて捨てちゃえばいいじゃないかとなりましたが、実際にはそうはなっていません。

人間、ホモサピエンスが誕生したのは二〇万年前で、コトバは五万年前から一〇万年前に出現したといわれています。人間が今のようにコトバをきちんとしゃべれるようになるまでには、途中の段階のコトバがあつたかもしれませんが。アメリカのチョムスキーという哲学者・言語学者は、コトバは五万年前頃に突然バンツと現れたといっていますが、コトバが突如現れたのか、連続的に段々とコトバになってきたのかについては大きな論争になっています。

私は、昔はコトバがボコツと出たという立場でしたが、いろいろな研究成果を見てきた結果、今は徐々に生まれてきたという見方のほうが正しいかなと思っています。コトバの出現が五万年前として、文字や法律、社会的制度などが生まれたのは六〇〇〇〜七〇〇〇年前。現在のイラクやトルコ周辺に栄えたメソポタミア文明がその最初で、エジプト文明などはそれよりちょっと遅れています。おカネが世界で初めて流通したのはギリシャで、古代ギリシャを発達させる「原動力」となりました。

それでは、おカネやコトバが存在する前の社会はどういうものだったのか。そういう社会では、人間は共同体に属していました。コミュニティといわれるものです。古代社会の一つの共同体には、一〇〇人くらいしかいなかった。[1] コトバのない時代の共同体では、表情や身振り、叫び声などで意思が伝えられた。伝統的社会における交換は贈り物とその返礼という形で行われていました。贈り物をされた人は相手に義理を感じ、贈り物を返しますが、今度は返礼された人がその相手に義理を感じて、さらに贈り物をし、それを受けた人がさらに返礼するという果てしない贈り物と返礼のくり返しによって、モノが交換されていたのです。

日本に「お歳暮」や「お中元」の習慣があるのも、そのような古い時代の伝統の名残りです。私の両親や祖父母にとって「お歳暮」「お中元」はとても重要なことで、贈られたら必ず贈り返さなければならぬと、そのことで頭がいっぱいでした。

顔の表情や、身振り手振りで意思表示するには、お互いに顔を知っていないといけない。未知の人とはべーシックなことは通

じても、込み入ったことになる通じません。モノを贈ってくれた人に返礼するには、贈ってくれた人を覚えていなければなりません。だからおカネができる前の社会は、お互いの顔を知らないと成り立たない。③せいせい一五〇人くらいまでの規模が限度だったでしょう。

そのような共同体は、互いに依存し合う美しい社会ともいえますが、同時に不自由でもあります。お互いが常に監視し合い、掟おきてに外れると村八分むらやちぶんにあう。④そういう社会は内と外がはつきりしています。仲間同士は仲がよくても、外の人とは敵対する。内は味方で、外は敵。節分の豆まきで「福は内、鬼おには外」というのは正にそのことです。

⑤

コトバさえ共有していれば、知らない人でも自由にコミュニケーションが図はかれます。

文字によるコミュニケーションが行われるインターネットでは、見知らぬ人とどんな【C】できます。ネットの世界には危険な側面も大きいのですが、意思疎通そつうの範囲はんいは大きく広げられる。おカネも同じで、流通していれば、見知らぬ人と交換ができる。昔、内と外があつた時代は、外の人とは物々交換をしませんでした。また、身分身分が違う相手とも交易しなかつた。古代ギリシャには奴隷どれいがいましたが、普通の人は奴隷とは交換をしませんでした。

②

おカネさえ持つていければ奴隷でも交換できた。ギリシャの一番有名な奴隷はイソップ。彼は物語を書いて稼かせいだおカネで自由になることができました。法律がしっかりしていれば、土地を取引することもできます。法律がないと、相手の腕うで力が強つよそうだから交渉こうしょうをやめようと思つたり、権力のある人に土地を取られたりしてしまふ。

おカネやコトバ、それから法律などによって、⑥人間は同じ人間になる。生命科学の意味ではなく、抽象的な意味で人間はお互いに平等な関係を持てるのです。おカネやコトバをつなぎ役として、人間は「世界の物理的構造」、「生物としての遺伝的本能」から、ある意味において自由な存在になることができました。そして生物学的な意味ではなく、Ⅱ普遍的人間の本性ほんしやうをくつたのです。

③

人間は誰でも等しくハッピーになれるのかというと、残念ながらそうではありません。おカネとコトバ、法律は

人間に自由を与えますが、同時に⑦さまざまな問題ももたらします。人間が「世界の物理的構造」「生物としての遺伝的本能」から自由であるということは、不安定な状態に置かれるということでもあるのです。

一万円札には、皆がそう思っているから一万円の価値がある。ところがみんなが疑いを持ち始めたら、日本政府は大丈夫かとなる。みんなが「価値がある」と思わないと、価値は失われてしまう。コトバも同じです。多くの人がコトバの意味を疑い出すと、コトバの意味が消えていく。皆さんが日本語を大事にしないと日本語はやがて消え、英語にとって代わられる可能性があるわけです。

4、おカネとコトバを使う社会というのは非常に不安定で、社会がグローバル化すればするほど不安定さは増します。そういう問題が実際に今、世界中で起きているのです。

〔『学ぶということ』(続・中学生からの大学講義) 1〕から 岩井克人「おカネとコトバと人間社会」(筑摩書房)より〕

注1・プロセス……過程。

注2・ベシツクな……基本的な。

注3・村八分にあう……交際を絶たれる。

問一

1 4 に入ることはとして適切なものを次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。(ただし、

同じものは使えない。)

- ア、つまり イ、さらに ウ、そして エ、でも オ、では

問二

線部Ⅰ・Ⅱの本文における意味として適切なものを次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

Ⅰ「原動力」

- ア、順調に進めさせるもの イ、知らしめるもの
ウ、何度もくり返させるもの エ、引き起こすもの

Ⅱ「普遍」

- ア、むだがなくて効率がよいこと イ、ほとんどすべてにあてはまること
ウ、他のものと比べられること エ、自分の感じ方や判断によって動くこと

問三

【A】と【C】に入る二字のことは次の漢字を組み合わせそれぞれ作りなさい。

交 明 見 物 談 流 評 解 疑 産

問四

本文には次の一文がぬけている。どこに入れたらよいか、この直前にくる五字をぬき出しなさい。

文字だったらもつと便利で、私が中国へ行ったとすれば、漢字を使った筆談がある程度成立する。

問五

——線部①「一枚の紙切れ」とあるが、これは「おカネ」の物理的な状態を表している。同様に、「コトバ」の物理的な状態を表している言葉を、文中の「おカネやコトバの本質とは」のまつまりから八字でぬき出しなさい。

問六

——線部②「同じこと」とあるが、どのようなことか。「〜ということ」につづくように文中から二十字で探し、初めの五字をぬき出しなさい。

問七

——線部③「せいぜい一五〇人くらいまでの規模が限度だった」とあるが、それはなぜか。その理由を説明した次の文の（ ）にあてはまるように、文中のことばを用いて、四十字以内で答えなさい。

コトバやお金ができる前は、お互いの顔を知らない、（ ）から。

問八

——線部④「そういう社会」とあるが、どういう社会か。文中のことばを用いて、三十五字以内で答えなさい。

問九

⑤ に入る小見出しとして適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、おカネやコトバは、人の自由や幸せのために必要なものである
- 2、おカネやコトバが与えてくれるのは、完全なる自由ではない
- 3、おカネやコトバは人を自由にするが、幸せにはしてくれない
- 4、おカネやコトバは、人に不自由も不幸せももたらすものである

問十 — 線部⑥「人間は同じ人間になる」とあるが、これはどういうことか。その説明として適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、知らない相手でもおそれずに、意思を伝えたり取引したりできるようになったということ。
- 2、身分に関係なく、財産を得る機会や学ぶ機会が平等に与えられるようになったということ。
- 3、身分の差や貧富ひんぷの差が小さくなり、みな同じような生活ができるようになったということ。
- 4、取引や交渉をする関係において、どんな人でも同じ立場に立てるようになったということ。

問十一 — 線部⑦「さまざまな問題ももたらします」とあるが、どのような問題か。その説明として適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、人々に疑われるようになることで社会の中での共通の認識にんしきが失われていき、社会が不安定になるという問題。
- 2、グローバル化していく世界で通用する言語を学ぶことが、自分の言語を学ぶことより大切にされるという問題。
- 3、人々が世界の物理的構造や人間の遺伝的本能について疑問に思い、人々と社会の関係が安定しないという問題。
- 4、金銭や政治について疑問を感じる人が増え、社会が変わり続けて人々が不安定な状態に置かれるという問題。

問十二 筆者が述べている内容と合っているものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、経済的な危機が起きて世界中に深刻な影響を与えると、おカネに対する人々の考えや価値観は大きく変化する。
- 2、おカネの価値やコトバの意味は物理法則や遺伝子的性質では説明できないが、人の意思や行動に影響を与える。
- 3、おカネやコトバを使うことによる問題が世界中で起きているため、今後は社会の大きな変化が求められる。
- 4、人間の本質は社会科学において研究されるべきで、人間の物理的性質や遺伝子的性質から考えるべきではない。

受験番号
氏名

得点

問一	⑤	①
問二	⑥	②
問三	③	
問四	④	
問五		
問六		
問七		
問八		
問九		
問十		
問十一		
問十二		
問十三		

問一	1
問二	2
問三	I
問四	II
問五	A
問六	B
問七	C
問八	
問九	
問十	
問十一	
問十二	
問十三	

問一	1
問二	2
問三	3
問四	4
問五	A
問六	B
問七	C
問八	
問九	
問十	
問十一	
問十二	
問十三	